

令和８年度第１回 安城市環境審議会議事録要旨

日 時	令和８年９月１０日（木）午後２時～４時００分	
場 所	安城市役所本庁舎３階 第１０会議室	
出席者	委 員	杉山会長、岩月副会長、飯尾委員、小林委員、浅田委員、岩井委員、片岡委員、神谷委員、竹本委員、土井委員、野村委員、久恒委員、山本委員、鈴木委員、石原委員、久米委員 １６名
	事務局	環境部長、環境都市推進課長、ごみ資源循環課長、環境都市推進課カーボンニュートラル推進室長、ごみ資源循環課主幹、環境都市推進課環境政策係長、環境都市推進課環境衛生係長、環境都市推進課カーボンニュートラル推進室温暖化対策係長、ごみ資源循環課ごみ減量係長、清掃事業所長、クリーンセンター所長、環境都市推進課職員、ごみ資源循環課職員
次 第	１ 会長あいさつ ２ 議 題 生活排水対策推進計画の改定について ３ 報 告 （１）第２次安城市環境基本計画・安城市ゼロカーボンシティ推進戦略・安城市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について （２）第２次安城市環境基本計画こども版の周知・啓発について ４ その他	
資 料	・【資料１－１】生活排水対策推進計画の改定について ・【資料１－２】生活排水対策推進計画（案） ・【資料２】第２次安城市環境基本計画・安城市ゼロカーボンシティ推進戦略・安城市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について ・【資料３】令和８年度安城市環境報告書 ・【資料４】安城市ゼロカーボンシティ推進戦略 令和７年度（２０２５年度）実績報告書 ・【資料５】令和７年度安城市一般廃棄物処理実施計画に係る事業実績 ・第２次安城市環境基本計画 ・安城市ゼロカーボンシティ推進戦略 ・安城市一般廃棄物処理基本計画 ・令和８年度安城市一般廃棄物処理実施計画	

１ 会長あいさつ

２ 議 題

生活排水対策推進計画の改定について

<説明事項>

【事務局】

- ・【資料１－１】生活排水対策推進計画の改定について
- ・【資料１－２】生活排水対策推進計画（案）

<報告に関する質問・意見>

【小林委員】計画の主目的は、油ヶ淵のCODを下げることであり、目的達成のために必要なことは、合併処理浄化槽への転換促進、市全体で汚水を流さない意識の向上である。

資料のデータは河川と湖沼、BODとCODで分かれているが、条件をそろえた状態でも比較すべきではないか。

河川の指標としては、BODを見ているが、COD値が高い河川も存在するので、注目すべきは、COD値が高い河川なのではないか。

油ヶ淵は、地形的に水が滞留する性質があり、CODが下がりにくい要因のひとつと思われる。また、汚染流入としては、河川からの流入が多く、次いで田んぼからの流入が多いと思われる。

計画の主目的として、家庭からの生活雑排水による汚染を改善していくことが重要である。そのうえで、愛知県が管理している油ヶ淵の管理についても考えるべきであり、県への働きかけを行う必要がある。

県が実施できる対策としては、下流域の水門開門・浚渫・砂利撒き・ばっ気施設の設置などが挙げられるのではないか。

【岩井委員】商工会議所でも会報で単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を勧奨する記事を書いているが、市民向けではなく事業者向けになっている。市は事業所に設置されている単独処理浄化槽の基数を把握しているのか。

合併処理浄化槽への転換をしなければならない基数を把握しておく必要があるのではないか。

【事務局】浄化槽台帳は県が整理しているため、現状、詳細までは把握できていない。古くからある中小規模の事業所であるほど、単独処理浄化槽が設置されている可能性が高いため、一般家庭の単独処理浄化槽のお宅とともに事業所についても県の台帳を確認して呼びかけていきます。

【久恒委員】啓発方法として、広報のみでは伝わりにくいため、水切りネットなどによる実演や町内会、小学校などでの周知、講習会の開催といった方法も有効ではないか。

水質モニタリング調査はどのように実施しているのか、頻度はどの程度か。

【事務局】啓発方法としては、町内会を活用した方法やまちかど講座などの活用を検討していく。

モニタリング調査は、今年度でいえば、市として年6回、ボランティア団体が6月から9月の間に3団体、7地点で実施している。愛知県全体では、さらに多くの団体、地点で測定が行われており、HPに公表している。

【土井委員】環境審議会ではいろいろな取り組みについて説明を受けて、次世代の子どもたちに向けて、安心して暮らせる社会、ウェルビーイングな社会を残していくかを考えていく必要があると感じた。

市民、親、企業としては、多くの人が幸せを実感できるアクションを市とともに伝えていくことがよい社会につながると感じた。

【浅田委員】下水道が市民の中で話題に上がることが少ないと感じている。

上水道であれば、エコネットが開催している根羽村の事業がある。

災害時にトイレが使えないとき、なぜ流せないのかと問われた経験があり、下水道に関する意識が低いのではないかと感じる。

ゴミに関しては、ごみ資源循環課から分別の呼びかけが頻繁に行われており、根羽村であればバスでの見学等があるが、油ヶ淵は県営の水辺公園にかきつばたを見に行く程度で、市街地から離れているため、なかなか足を運びにくい。

まちかど講座などで油ヶ淵や下水道を取り上げ、油ヶ淵や水辺公園に市民が足を運べるような取組を行った方がよいのではないかと感じる。

【事務局】現状であれば、「アクション油ヶ淵」というイベントを県と共同で開催していて、毎年、地元の中学生にはイベントのスタッフとして参加してもらうこともありますが、油ヶ淵水辺公園は非常に良い公園だと思っておりますので、周知啓発にして、安城市全域の小中学生に参加してもらえらるイベントも検討していきたい。

【石原委員】日常の小さな疑問に答えてくれるHPやフォームがあるとよいのではないかと感じる。

例として、浴槽を毎日洗う際に、洗剤を付けずに洗う場合と洗剤を付けて洗う場合のどちらがよいかわからないため、案内がほしい。

そのような身近な疑問に答えるサイトがあればよいとの要望があった。

【久米委員】安城市では、下水道整備が完了しつつあるが、金銭面の問題から下水道へ接続していない人々もいる。

安城市としては、下水道接続を促進する方針なのか、それとも個人の判断に委ねるのか。また金銭面での補助事業があるのかなど、安城市としての方向性を教えてほしい。

【事務局】下水道ではなくて浄化槽の担当として、お答えをさせていただく形になりますけれども、下水道接続が可能な地域では原則下水道に接続してもらうように呼びかけています。

2025年に埼玉県八潮市で発生した下水道事故や東日本大震災などの災害発生時に、下水道は使用不能に陥る可能性がある一方で、合併処理浄化槽は比較的早く復旧できたという事例があるがあり、以上の事例から国としては、合併処理浄化槽を普及していくという考え方を持っていますが、安城市として、下水道は令和7年度をもって整備がおおむね完了していますが、今後も下水道を維持管理していく考えであり、下水道の整備が完了している区域においては、引き続き下水道の接続をお願いしていきます。

下水道の整備が完了している区域外においては、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を推進していく必要があると考えています。

【岩月委員】説明資料内で「代掻き防止用凝集剤の配布」とあるが、代掻きとは具体的にどのような作業か。なぜ農家に配布するのか教えてほしい。

【事務局】代掻きは、生活排水とは異なる区分であり、稲作で行われる作業の一つで油ヶ淵ルネッサンス計画では抑制について検討されています。

【野村委員】JAあいち中央の職員として、説明させていただきます。代掻きとは、田植え前に田んぼ全体をかき混ぜ、その後均す作業であり、代掻きによって田んぼ内の水はとても濁ってしまい、濁った水をそのまま河川へ流出することで、影響が大きく出てしまいます。しかし、その濁りを落ち着かせてから河川に流すことで影響を抑えられますので、代掻きが行われる4～5月には、農協としてパトロールを実施して、いきなり濁った水を流させないようにしています。

現状の安城市全体の方向性としては、直まきという水を張らずに種まきを行うという手法が全体の約4割の農家で実施されており、代掻きを行わないことで河川への影響を抑制しています。

【事務局】凝集剤の成分としては、塩化カリウムであり、環境への影響の少ない物質を選んで配布している。

【鈴木委員】「COD目標値」について、「COD平均値」となっているが、正しくは「COD75%平均値」ではないか。

【事務局】誤りであるため、修正する。また、同ページで「COD」が「CDO」と誤って表示されているので修正する。

(議題に対して異議はないことでした承)

3 報 告

(1) 第2次安城市環境基本計画・安城市ゼロカーボンシティ推進戦略・安城市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について

<説明事項>

【事務局】

- ・【資料2】第2次安城市環境基本計画・安城市ゼロカーボンシティ推進戦略・安城市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について
- ・【資料3】令和8年度安城市環境報告書
- ・【資料4】安城市ゼロカーボンシティ推進戦略 令和7年度(2025年度)実績報告書
- ・【資料5】令和7年度安城市一般廃棄物処理実施計画に係る事業実績

<報告に関する質問・意見>

- ・第2次安城市環境基本計画の進捗状況について

【久米委員】私は小川町の環境保全向上委員会で、環境問題について活動している。市等から補助金をもらい、朝6時から8時まで草刈りを行っているが、地域のために活動をしている者に対してサンドイッチを配ったところ、市からその費用を補助金から出してはいけないと言われた。

【事務局】いただいたご意見は担当課に申し伝える。

- ・安城市ゼロカーボンシティ推進戦略の進捗状況について

【片岡委員】22 ページのところで、2023 年度は 2013 年度比で、約 26.8%の CO₂ を削減したという風にご説明いただいたが、一方、その前段で、2030 年度には市として、(2013 年度比で) 46%の削減を目標としているというご説明もあった。ポイント数にして、あと 10%、20%程度になろうかと思うが、そのあたりについて、どのような見通しを持っておられるか、コメントをいただけたら幸いである。

【事務局】安城市役所の事業所としての計画ではなくて、安城市全体の計画ということでございますので、安城市が独自で取り組みをするだけでは始まらない。このあたり、産業部門から CO₂ が一番出ているというところがあるので、東邦ガスや大企業ではご自身で CO₂ 削減に取り組まれていると思うが、中規模・小規模の中小企業の方々だと、なかなか CO₂ 削減が進んでいないという現実があると思っているため、他市の先進事例等を視察しながら、中小企業の脱炭素経営支援する取り組みを安城市として検討している。このあたりの CO₂ の削減を行っていき、46%以上削減を図っていききたいなというところで、大きな部分としては、そのようなことを考えている。

【鈴木委員】 21 ページにある直近の 2023 年度の CO₂ 排出量の数値は、2030 年に向かって、概ね順調というふうに見受けられたが、そのような認識でよいのか。

【事務局】 この数値が先ほどご説明させていただいたとおり、国が持っている統計データを元に、安城市の排出量を按分するなどして出している数字になっており、2013 年度比でいくと、順調に減っているという風には考えている。ただ、先ほど片岡委員からもお話があったが、何もせず見ているだけだと推進できないため、安城市としてもプラスアルファで、中小企業の脱炭素経営支援を行い、目標達成に向けてやっていきたいと考えている。

【鈴木委員】 市の CO₂ 排出量について、基準年度の数値が 1786 で、目標年度の 2030 年度に向けてマイナス 715 と書いてあるが、その場合、目標年度の排出量 959 と足し算すると合わないような気がする。

【事務局】 何もしなくても勝手に減っていく数値が資料に反映されておらず、対策をして減らす数値（マイナス 715）のみの記載になっていた。そのあたりをご説明できておらず申し訳ございません。

・安城市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について

【小林委員】 1 人 1 日当たりのごみ排出量が下がっているということは、家庭系ごみと事業系の一般ごみを合わせた量が減っているということか。

【事務局】 そのとおり。

【小林委員】 1 人 1 日当たりの家庭系ごみの資源ごみを除く排出量は増えている。全体の排出量は減っていて、家庭系ごみの燃えるごみは増えているということは、事業系の一般ごみが減っているのか、あるいはリサイクルされている量がなかなか減らないのか、どちらが原因か。リサイクル率はなかなか分かりにくい数字で、ごみステーションに回っている量もあるだろうから、リサイクル率が減っているからといってリサイクルされていないのかはよく分からないが、こういった分析をしているか。家庭系の燃えるごみの量を減らすためにこういった対策を立てるのか。例えば、安城市はプラスチックごみの回収が 1 週間に 1 回しかないが、1 週間に 2 回にすれば出す量が増えるとか、こういったアクションを起こすかを教えてほしい。

【事務局】 引き続き市の広報、SNS 等で分別等の広報活動はしていきたい。昨年度と比べると事業系ごみは減っている。

【小林委員】事業系ごみが減ったから 1 人 1 日当たりの排出量も減っているということか。

【事務局】事業系ごみも家庭系ごみも両方減っている。

【小林委員】そうであれば、リサイクル率が下がっているのは間違いない。事業系一般ごみは分かりにくいので、説明されないと分からない。

【久米委員】計画改定案において、汚水処理人口普及率が 93%と記載があるが、残りの 7%は何か。

【事務局】下水道未整備区域に設置されている単独処理浄化槽と汲み取り便槽が市全体で残り 7%存在するという指標である。

【久米委員】合併処理浄化槽への転換と下水道への接続のどちらが市として優先されているのか。

【事務局】下水道整備区域では、下水道への接続を推進し、区域外では、合併処理浄化槽への転換に対して補助金を支給している。

【久米委員】安城市としては、災害に備えて、下水道は整備しないという理解でよいのか。

【事務局】繰返しになるが、下水道整備区域の方々には、下水道に接続してもらう、単独処理浄化槽、汲み取り便槽を使用しているの方々には、合併処理浄化槽へ転換してもらう。維持管理費がかかる浄化槽に対して、転換のための補助金を支給させていただいている。

【杉山会長】40 ページのあんしんふれあい収集事業を新しく始めたとのことだが、昨年度の実績数と今年度の実績数を、具体的な数字が分かっていたら教えてほしい。

【事務局】令和 7 年度は 8 世帯 9 人が利用している。令和 8 年度の 9 月 1 日時点では、34 世帯 37 人が利用している。

【鈴木委員】39 ページのクリーンバス事業について、市内の小学校 4 年生を対象に 21 校とあるが、これは市内の小学校全校か。

【事務局】 そのとおり。

【鈴木委員】 子どものうちからそのようにごみの処理がされているということを、みんな平等に知ってもらうことは非常に大事だと思う。何か違いが出てしまうと、その後の子どもたちの成長に影響すると思うので。27 ページ右側の 1 日 1 人当たりのごみ排出量の推移のグラフが、2020 年度から 2023 年度にすごく下がっているが、何か理由はあるか。

【事務局】 最近の物価上昇の影響が大きいのではないかと考えている。物価上昇の影響による買い控えが全国的にも影響していて、排出量が下がっているのではないかと推察している。

（２）第２次安城市環境基本計画こども版の周知・啓発について

<説明事項>

【事務局】

- ・ 第２次安城市環境基本計画こども版の啓発について（配布資料なし）

<報告に関する質問・意見>

意見なし

<総括>

【飯尾委員】 本日の主要議題である生活排水対策について、環境省を通じて県から課せられる目標を達成することも大切であるが、自治体は市民の生活環境を守ることがまず第一だと思う。例えば、生活排水が悪臭や害虫の発生につながり、家庭周辺の衛生環境を悪くするおそれがある。地球温暖化が進むと伝染病の原因になる危険もある。また、気候変動の影響により、名古屋市の内水氾濫のような汚水が流れ出すリスクは高くなっていると思う。

このような問題を解決するには、市民の気づきを促すことに尽きると思う。浅田委員がおっしゃったように、下水は隠されているからあまり気づかないし、どのようになっているか気にもしない人が多い。だからこそ、有効な対策として単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への切り替えを進めていく必要がある。なぜ、合併処理浄化槽へ切り替えていくのかというと、単独処理浄化槽の新規設置は平成 13 年から法律で禁止されており、合併処理浄化槽と比べて BOD の排出量が 8 倍から 10 倍に及ぶためである。また、単独処理浄化槽の耐用年数はおよそ 30 年であるため、行政は合併処理浄化槽への転換を進めている。耐用年数から考えても、切り替えを進めるべき時期である。転換する際に費用はかかるが、補助金は非常に手厚い。しかし、補助金の周知が十分にされていなかったり、浄化槽に関心を持たれていないのが一番の問題だと思う。

自治体がまず行うべきことは見える化であり、それによって市民に台所やお風呂から流れる水が油ヶ淵に直結していることに気づいてもらう必要がある。油ヶ淵は地域の環境を良くしていくために、住民が自分たちの生活や衛生を守るために、今何をすべきかを示す象徴だと思う。

名古屋の浄水場で子どもたちを集めて、浄水場で水がどのようにきれいにされて家庭に戻ってくるのかを知ってもらうワークショップを行ったことがある。子どもたちと一緒にカレーライスを作り、カレーの汚れを台所でそのまま洗うのか、キッチンペーパーで拭いてから洗うのかによって、どれだけ環境負荷が違うか実験した。久恒委員から生活排水に関する啓発は広報だけでなく、講習会も実施したらどうかという提案があった。活字だけでは伝わらないことがあるため、体験し行動に結びつけることが大切である。例えば、お風呂の掃除講座のような取り組みも良いと思う。私自身も毎朝お風呂掃除をしているが、水を流すときに少し申し訳ないような気持ちになることがある。こうした素朴な疑問に答えていくことで、我が家の台所やお風呂が油ヶ淵につながっていることが伝わるはずである。

それと同時に、次世代の子どもたちに伝えていくことも大切である。カレーのワークショップやごみ処理施設の見学のように実際に体験することで、子どもたちもこれはいけないと思ったことは記憶に残り、行動につながる。

だからこそ、目標達成や油ヶ淵ルネッサンスといった言葉だけでなく、市民が今何をしなければならないのかを明らかにすることが重要である。そして、それを見える化して伝えていくことが、自治体の第一の役目ではないかと思う。

【小林委員】 本日の審議会ではものすごくたくさんの意見が出て、大変良い会議だったと思う。形式的ではなくて、皆さんから前回と比べると何倍も多く意見が出たことがとても良かった。

私はデータを見て、数字から考えるほうである。行政が動くときは予算を伴うため、優先順位をつける必要がある。その点をもう少し伝えてもらえるとよい。例えば、ごみの減量であれば、データを提示して「こういう理由だから、この施策をとる」ということを伝えたとよい。ある程度の根拠をもって一つずつ進めていくほうが分かりやすいし、予算を大切に使うことにつながると思う。

また、油ヶ淵の問題であれば川ごとにCODが異なるため、その数値から考えることができる。例えば、CODの数値が基準値より高い川があったとする。川があるということは、その流域があり、田んぼが多いのかあるいは住宅地が多いのか、住宅地が多い場合は単独浄化槽が多い地域なのかということがある程度分かる。そこから方針を決めて、事業を進めていく方が効果的であると思う。

もう一つはあまり話題にならないが、安城市はやはり工業地域である。例えば、全国と比べると10%くらい工業活動から出る温室効果ガスが多い。産業の会社に対して、温室効果ガスを減らしてくださいとは言いがたいが、言えない中で、企業と市民がつながるような施策を少しずつ増やしていくと良い。それが子どもの人材

育成にもつながると思うため、地域ならではの特徴をもう少し意識して、CO₂削減につながるような施策を進めると良いと思う。

4 その他

<説明事項>

【事務局】

次回の環境審議会は、令和8年11月18日(水)午後2時からを予定